

日本の内なる“中華”に屹立する富士山 —「日本型華夷意識」を中心に—

松島 仁

古来人々の崇敬を集め、ときに畏怖の対象となってきた聖なる火山——富士山。それは日本人の心性や美意識、そしてイデオロギーを歴史的に映し出してきた“日本の肖像”であると同時に、日本という共同体を象徴的に可視化するアイコンでもあった。

本発表ではそうした富士山と徳川将軍、さらに明清交替という東アジアの混乱期に将軍が対峙した“中華”の関係に焦点をあて、富士山が徳川将軍を象徴する存在として位置づけられ、富士山をめぐる視覚イメージが将軍権力の文化装置として機能していった過程を、徳川将軍の技能官僚でもあった狩野探幽を中心とする絵画作品のなかに確認していく。

富士山が単独の画題としてしばしば描かれるようになった室町時代には、本来漢の文化領域に属する水墨画の主題として富士山が選ばれた。とりわけ（伝）雪舟筆「富士三保清見寺図」（永青文庫蔵）は、雪舟が渡明した折、皇帝の命により制作し、当地の文人詹仲和の賛を得て日本に持ち帰ったという伝承をもつ作品で、「渡唐富士」と通称される。（伝）雪舟筆の永青文庫本は、夏珪など南宋宮廷絵画に淵源をもつ雪舟の構築的な画面のなか三峯型によるやまと絵風の富士山を配し、濃厚な“中華性”をまとう。同作は徳川将軍の御用を担った狩野探幽や安信などによって写し継がれるなど、江戸時代前半には富士山図の規範として機能した。

一方、狩野探幽は、富士山を中心に向かって右方に三保の松原、左方に清見寺を配した永青文庫本の構図をもとに新たな富士山図の規範を再生するが、それは探幽が編み出した徳川将軍家のための新しいやまと絵様式—“王朝絵画”様式によって描かれた。

探幽が創出した富士山図の新しい型は、江戸城本丸御殿中奥休息の間障壁画としてもえられ、そこでは上段の間に富士山を中心とする関東の名所、下段の間に吉野や龍田など王朝世界の伝統的な名所が配される。天皇を中心とする王朝世界により排他的・独占的に継承されてきた名所が、徳川将軍の新しい名所により取って代わられるのである。

狩野探幽による新しいやまと絵様式で描かれた富士山は、倣古画といわれる一連の絵画主題にもモチーフを提供する。倣古画は四代将軍徳川家綱の治世にあたる寛文年間（1661～72）を中心に多く制作された絵画ジャンルであり、古典的価値を付与された中国絵画史の巨匠の筆法を模倣したうえ、狩野探幽の様式に還元しつつ描き分け、画帖や画卷として配列した作品群である。

そのうち徳川家綱の命により描かれた倣古画「学古図帖」は、「描徽宗體」として北宋末の皇帝徽宗の白鷹図を冒頭に配する。白鷹は徽宗さらに“中華皇帝”を想起させるモチーフとして人の目になじんだモチーフであった。

「描徽宗體」の白鷹図の後には、南宋から元代を中心とする中華の名家、さらに日本の巨匠の筆様による作品が続き、探幽自身の落款とともに新やまと絵様式の富士山図が巻末

に据えられる。

探幽の倣古画では、「学古図帖」のようにしばしば巻末に富士山が配され、ときに「自家流（様）」と書き添えられる。「自家流」とは狩野探幽自身および狩野家の様式であるとともに、狩野派絵画を自らの“王朝絵画”とした徳川将軍の様式でもあった。「学古図帖」では中華皇帝に淵源する文化伝統が集大成され帰結すべき存在として、徳川将軍を暗喩する探幽の新しいやまと絵様式による富士山が位置づけられているのである。

倣古画に底流する富士山を“中華”に対峙させ日本の優位性を主張する認識は、将軍家の文教官僚で儒者の林鶯峰の詩文集にもうかがうことができるが、探幽の倣古画をプロデュースしたのが他ならぬ鶯峰そして林門の儒者たちであった。一連の倣古画の嚆矢である探幽筆「倣古画図巻」（現存せず）巻末に掲載された鶯峰による跋には、中国絵画史のエッセンスが時間と空間を隔てながら、その当時の名手で歴代名家の長所を吸収した探幽に伝えられた旨が書される。

富士山を徳川将軍に置きかえるならば、林鶯峰の富士山認識さらに倣古画の画面構成は、徳川将軍の統治する日本を中華とし朝鮮王朝やオランダ、琉球国を朝貢国と位置づける観念的かつ仮想的な対外観「日本型華夷意識」にも通じる。

なお倣古画と同趣の作として、中幅に「新やまと絵」様式による富士山図、左右幅に南宋夏珪様式を借りて描かれた中華の名勝・聖地を配した探幽筆「富士山・金山寺・育王山図」（個人蔵）もあげられる。倣古画諸本や「富士山・金山寺・育王山図」は、富士山に将軍を投影しながら過去の中華皇帝とその文化伝統を従える“中華皇帝”徳川将軍を暗喩している。

以上のように本発表では、徳川将軍の文化的覇権を示す“王朝絵画”としての富士山図が狩野探幽によって編み出され、それが「日本型華夷意識」のなか“中華皇帝”の属性をまともわされていく過程を確認する。